

図1



学校・家庭・地域の連携・協力による教育施策を推進します

第2期しまね教育ビジョン21を策定しました

教育しまね

2014年(平成26年)7月  
Vol.55  
島根県教育委員会

特集 第2期しまね教育ビジョン21

INFORMATION

「しまね人権フェスティバル2014」を開催します  
【同時開催】平成26年度人権・同和問題を考える県民のつどい

日時/平成26年9月21日(日)  
時間/午前9時30分～午後3時30分  
会場/島根県芸術文化センター グラントワ(益田市)  
内容/親子神楽、益田東中学校吹奏楽部演奏  
六子コンサート、盲導犬とのふれあいコーナー  
各団体ブース展示・ワークショップ  
飲食・物販ブース、人権相談コーナー  
講演 浦本蒼至史さん(被差別部落問題研究者)  
講師:浦本蒼至史さん(被差別部落問題研究者)  
演題「無知を許さず～連続大量差別はがき事件～(仮題)」  
人権・同和教育啓発 ほか



▲浦本蒼至史さん

親しみやすい雰囲気の中で、身近な人権問題に気づき、学んでいただけるイベントです。身近にある人権について、楽しみながら考えてみませんか。ご来場をお待ちしています。  
○お問い合わせ先  
島根県人権啓発推進センター TEL 0852-22-6051

企画展

「倭の五王と出雲の豪族-ヤマト王権を支えた出雲-」

日時/7月25日(金)～9月15日(月)  
期間中の休館日 8月19日(火)  
開館時間/午前9時～午後6時  
会場/古代出雲歴史博物館特別展示室(出雲市大社町)  
観覧料/一般700円、大学生400円、小中高生200円

「倭の五王」とされる五世紀の大王たちは、列島史上最大規模の前方後円墳を築造し、ヤマト王権の権力を国内外の人々に誇示しました。この時代、出雲の豪族は一辺50mを超える巨大な方墳を築き、最古級の人物埴輪を作るなど、ヤマト王権との密接な関係を築き上げました。出雲の豪族たちがヤマト王権をいかに支えたのか、律令時代につながる「出雲」という地域的なまとまりがどのように形成されたのか、最新の研究成果をもとに新たな古代史像を紹介します。



▲仁徳天皇陵古墳

○お問い合わせ先  
古代出雲歴史博物館  
TEL 0853-53-8600

社会教育施設での体験活動を!!

☆県立青少年の家(サン・レイク)☆

出雲市にあるサン・レイクは、宍道湖北西岸の小高い丘の上に位置し、幼児から高齢者まで様々な年齢層の方々にご利用いただける施設です。宿泊、日帰り問わず、様々な体験活動を楽しんでいただけます。

その中でも、サバニ体験は特色ある活動プログラムの一つです。仲間と息を合わせて雄大な宍道湖へとサバニ(10人乗りの大型カヌー)を漕ぎ進めます。他にもカッターやカヌーの研修など、研修者の人数や年齢に応じた湖面での活動ができます。

また、レーザーフラットや絵付けといった創作活動、カブラ(積木の一種)・キンボール(巨大ボールを使った遊び)などのレクリエーション活動、野外炊飯・ぐるぐるパン作りといった野外調理活動も人気のプログラムです。この他にも様々な体験活動プログラムがあります。詳しくはサン・レイクのホームページをご覧ください。

学校や子ども会、クラブ、サークルなどの団体はもちろん、家族や友達同士でのご利用も大歓迎です。一畑薬師での座禅体験やゴビウスの見学など、近隣施設と連携したプログラム作りも可能です。まずはお電話にて気軽に問い合わせください。



▲サバニ体験



▲カブラ

TEL 0853-69-1316

☆県立少年自然の家☆

今年も夏色満載!お友達同士で、ご家族で、各グループでのワクワドキドキ体験をしませんか? 県立少年自然の家(江津市)は、豊かな自然の中で、子どもたちの体験活動を支援することももちろん、幼児から高齢者に至る幅広い年齢層の方々気軽に利用していただける社会教育施設です。

**胸いっぱい野外活動!**  
県内屈指の21のフィールドアスレチックをもつ冒険の森、サイクリング、浅利富士登山、秘密基地のやぐらづくり、各種オリエンタリング、人間関係づくりのグループワーク、ネイチャーゲーム、キャンプファイヤー、ナイトハイク、肝試しなど豊富なプログラムをご提供できます。

**ワイルドな野外炊飯!**  
かまどやバーベキューコンロで火をおこし、カレーライスやうどん、バーベキューなどを自分たちの力と工夫で作ってあげてください。

**自然の素材でものづくり!**  
創作活動では、どんぐり松ぼっくり工作などはじめ、全14種類のラインナップ!

**仲間と見つける宝物!**  
室内活動では火おこし体験や、光の芸術、キャンドルのつどいなどが体験できます。

受入事業はもちろん、主催事業も満載です。詳しくは、<http://www.pref.shimane.lg.jp/shonenshizen/>にてご確認ください。

TEL 0855-52-0716

県立施設の企画展等のお知らせ(7月～2月)

施設名 (TEL)	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
県立図書館 (0852-22-5725)	ニシキゴイ～日本の美～(7/10～8/6)	しまねの工芸展(8/8～9/3)	深海に生きる(9/5～10/1)	統計でみる島根のすがた(10/3～11/5)	バリアフリー図書で読める子ども読書のすすめ(11/7～12/3)	「ちきゅうおんだんか」って何だろ? (12/5～12/27)	美少女の美術史(1/6～2/4)	日本酒の魅力(2/6～3/4)
県立青少年の家 (0853-69-1316)	サマーチャレンジ(8/6～12)		サン・レイクフェスティバル(10/19) にここファミリー(10/18～19/10～11) キッズチャレンジ(8/23,9/13,10/4,11/29～30,1/31) にんにんチャレンジ(1/17～18,1/24～25,2/7～8,2/14～15)					
県立少年自然の家 (0855-52-0716)	チャレンジサマー第2回(7/19～20)	ジュニアサマーキャンプ(8/1～5)	子ども探検隊in自然の家(10/11～12)	森と海のつどい第1回(11/15～16)	森と海のつどい第2回(11/29～30)	ジュニアウィンターキャンプ(12/26～28)		
古代出雲歴史博物館 (0853-53-8600)	企画展「倭の五王と出雲の豪族-ヤマト王権を支えた出雲-」(7/25～9/15)		企画展「修験の聖地 浮浪山鶴洞寺」(10/10～11/24)		特集展「尾道松江線発掘物語」(12/26～2/22)			
八雲立つ風土記の丘 (0852-23-2485)	ミニ企画展「あの世をぞく part2」(7/12～9/7)		企画展「古代のすまい」(9/20～11/16)		ミニ企画展「あかり(仮称)」(12/20～2/15)			
県立美術館 (0852-55-4700)	「浮世絵の美-平木コレクションの品名」(7/18～9/1)		「生誕100年 植木茂」(9/12～11/3)		「第47回島根県総合美術展」(県展)(11/15～23) 「第61回日本伝統工芸展」(12/3～25) 「ポトレイト・イン・ミュージアム-肖像画の魅力-」(1/2～)			
石見美術館 (0856-31-1860)	企画展「美しい日本のデザイン」(8/2～9/23)		企画展「飯内佐司彫刻展」(10/4～11/17)		企画展「美少女の美術史」(12/13～2/16)			
三瓶自然館 サヒメル (0854-86-0500)	夏の企画展「さんべ大昆虫展」(7/12～9/28) 大型ドーム映像特別番組「秘密結社鷹の爪ムシムシ昆虫プラネット」(7/12～9/28)				冬の企画展「自然を楽しむ科学の眼」(12/6～2/1)			
宍道湖自然館 ゴビウス (0853-63-7100)	特別展「錦鯉-日本の美-」(7/19～9/1)		イベントや生きものの情報をホームページでも紹介しています。ぜひご覧ください。				特別展「おいしい甲殻類(仮)」(12/20～2/2)	
しまね海洋館 アクアス (0855-28-3900)	「謎解きゲーム 海底都市アクアス」(6/21～9/23) 「わんぱく探検隊」(7/19～8/31) 特別展「祭」(7/19～9/23)							

保護者向け教育広報紙「教育しまね」をよりよくするため、みなさんのご意見をお寄せください。 〒690-8502 松江市殿町1 県教育庁総務課 TEL.0852-22-5406 FAX.0852-22-5400 ホームページ 島根県教育委員会 検索

県教育委員会は、平成16年に策定した「しまね教育ビジョン21」の計画期間が終了したことから、「第2期しまね教育ビジョン21」をこのたび策定しました。(計画期間：平成26年度～平成30年度) 第2期ビジョンの要点を以下のとおり紹介します。

**全体構造**

上段の図1は、第2期ビジョンの全体構造を示したものです。図の左端には基本理念「島根を愛し世界を志す 心豊かな人づくり」を掲げました。第2期ビジョンの根底にあるテーマを表現したスローガンです。その右にある三つの島根の教育目標「向かっていく学力」「広がっていく社会力」「高まっていく人間力」は、取組を進めていく上での3本の柱となるものです。これら三つの島根の教育目標は、各々、その右側にある複数の重点目標と関係付けられています。これらは各教育目標を構成する要素であり、教育目標を達成するために具体的に育てていかなければならない能力や態度などを示すものです。図の最下段には三つの柱の基盤となるものを示しました。その一つは学校教育を家庭や地域との連携の中で、また異なる学校種間の連携の中で進めていくことに関わる内容です。もう一つは、社会教育の展開に関わる内容です。図の右端の施策(具体的な事業や取組)は、三つの教育目標や基盤との関連において大きくくりグルーピングされています。複数の施策の実施が、複数の重点目標を共有し、相互に有機的に関連することによって、教育目標の達成にアプローチしていくこととなります。

**基本理念**  
島根を愛し世界を志す心豊かな人づくり

科学技術の進歩や国際化・情報化の進展、少子化の進行、価値観やライフスタイルの多様化など、社会の急激な変化に伴い、先の見通せない厳しい状況が予想されます。このような時代を生き抜くためには、島根や身近な地域など、ふるさとの自然・歴史・文化・伝統などに対する愛着や誇り、理解を土台に据えることが大切だと考えます。そして、そのような土台の上で、日本や世界を見渡す広い視野を持ち、そうした広い世界全体と自分との関係を意識しながら、高い目標、困難な課題、未知の領域等々の意味を含んだ「世界」に挑戦しようとする意志を持ち、夢や希望・目標に向かって意欲的に進んでいくとともに、社会に能動的に関わる態度や貢献する心を持つことが大事だと考えます。また、一方で、そうした時代への対応とともに、他人を思いやる心や美しいものに感動する心、生命を尊重する心などの豊かな心は、いかなる時代であっても身に付けることが重要です。基本理念に込められた意味を、学校・家庭・地域・行政など、教育に関わるすべての人が共有し、相互に連携しながら取り組んでいきたいと考えます。

# 島根の教育目標

向かっていく学力

夢や希望に向かつて主体的に学ぼうとする人を育てます

地域社会での豊かな体験、多様な人々との出会いや交流を通して、子どもたちは自らの学びの目標を抱くことができます。こうした夢や希望の実現に向かつて、知識や技能だけでなく、学習意欲や知的好奇心など生涯にわたる学習する基盤が培われ、それを高め続けようとする意志で行動できる人を育てたいと考えます。

広がっていく社会力

多様な人と積極的に関わり、社会に役立つ人育てます

一人一人が、個人の能力や意識を高めることとはより、他者や他の世界と接触し、刺激し合いながら、より良い影響や相互作用を起こして社会は発展していきます。そのため人と関わる機会をできるだけ多く捉えて能動的に働きかける態度を持ち、社会に貢献する人を育てたいと考えます。

高まっていく人間力

自己を尊重し、大切に生きていく人育てます

自分の存在を肯定的に捉え、自分を大切にし、自分の考えや言動に自信を持つことが大切です。その上で、他者に対しても、自分と同じように、その人が持つ自尊感情を尊重して接することができ、互いに支え合って生きていこうとする人を育てたいと考えます。

## 「学力」の向上、「社会力」の広がり、「人間力」の高まり

の好循環の関係をつくることが重要です。

### 家庭・地域と連携した学校教育の展開 (左頁)

図3は、就学前から高等学校までの発達段階における要点を学校種ごとにわゆるキャリア教育の視点を取り入れて整理したものです。

この図では、育むべき目標を「向かっていく学力」「広がっていく社会力」「高まっていく人間力」の項目ごとに、発達段階に応じて整理しています。

「基本的な生活習慣の形成、健康体力づくり」、家庭(保護者が子どもたちにとのように関わっていくのかという「家庭のかわり役割」、学校と家庭を支援していただく地域をそれぞれ表現しています。

これらを総称して「家庭・地域と連携した学校教育の展開」と呼称し、これを、すべての関係者が共通認識を持って推進します。

### 島根を愛し 世界を志す 心豊かな人



## 「学力」とは (学ぶ力・学んだ力)

国際化、情報化の急激な進展など激動する社会を生かすためには、これまでの狭義の学力(知識・技能)だけに頼ることはできません。

様々な状況変化に的確な対応がとれるよう、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」問題発見・解決力などいわゆる「学んだ力」に加え、「学習意欲、知的好奇心、学習計画力」などのいわゆる「学ぶ力」の双方を身に付ける必要があります(図2参照)

知識や技能などを身に付けたり、それらを活用したりする「学んだ力」を高めていくためには、その支えとなる、主体的に学ぼうとしたり、向上しようとする「学ぶ力」を育むことが大切です。

親子読書アドバイザーは、保護者に親子読書(絵本の読み聞かせ)の大切さを講話する地域のボランティアです。幼稚園や保育所、公民館や子育て支援センターのほか、乳幼児健診で乳幼児が初めて絵本にふれるブックスタートの機会に話したいこともあります。

## 「親子読書アドバイザー」の活用

親子読書アドバイザーは、保護者に親子読書(絵本の読み聞かせ)の大切さを講話する地域のボランティアです。幼稚園や保育所、公民館や子育て支援センターのほか、乳幼児健診で乳幼児が初めて絵本にふれるブックスタートの機会に話したいこともあります。

親子読書アドバイザーは、保護者に親子読書(絵本の読み聞かせ)の大切さを講話する地域のボランティアです。幼稚園や保育所、公民館や子育て支援センターのほか、乳幼児健診で乳幼児が初めて絵本にふれるブックスタートの機会に話したいこともあります。



親子読書アドバイザーは、保護者に親子読書(絵本の読み聞かせ)の大切さを講話する地域のボランティアです。幼稚園や保育所、公民館や子育て支援センターのほか、乳幼児健診で乳幼児が初めて絵本にふれるブックスタートの機会に話したいこともあります。

## ふるさと教育 推進事業

「ふるさと教育」は、地域のひとのふれあいや地域での様々な体験等を通して、学ばず喜びや充実感を味わい、ふるさとへの愛着と誇りを養うとともに、心豊かな人間性を育むものとして、推進しています。

これまでの9年間の成果は次のとおりです。

- 地域の「ひとのこころ」に興味をもつ児童生徒が増えて、意欲的に学習に取り組む姿が見られるようになり、ふるさとを愛する心が育ってきている。
- 公民館等を中心とした学校支援体制が整い、より多くの地域の方に「ふるさと教育」に関わってもらっている。さらに、放課後支援、家庭教育支援等の取組と合わせて、地域で子どもを育てようとする気運が高まってきている。

「今、住んでいる地域の行事に参加していますか」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合 (%)

年度	小学校		中学校	
	県	全国	県	全国
H25	73.1	63.9	47.8	41.6
H22	70.4	61.6	35.7	34.3

※全国学力調査・児童生徒質問紙調査結果より



☆ふるさと教育イメージキャラクター